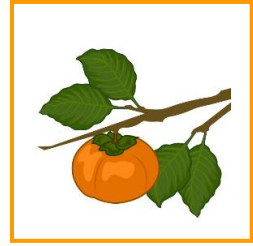


そろそろ暦の上では、神無月から【霜月】へと季節が変わります



寂しさは その色としも なかりけり 楨立つ山の 秋の夕暮れ

(寂蓮 法師)

秋の寂しさは一文字で表せます。哀愁の「愁」=秋の心と書きます。

「霜月」は暦便覧では、つゆが陰気に結ばれて、霜となりて降るゆへ也・・・と有るように、野の花が少なくなり、野山は紅葉の景色へと変わります。又 別名として 神楽月 (かぐらづき)「子月 (ねづき)」とも呼びます。

ところで、11月は結構、祝日や行事が 次々、順繰りにやって来ます。

【祝日】

文化の日(戦前は四大節の一つ 明治節) と 勤労感謝の日(旧新嘗祭=宮中祭祀)。

【七五三】(11月15日)

江戸時代に行われていた、3歳の男女児の「髪置きの儀」、男子5歳の「袴着」、女子7歳の「帯結び」の儀式を、明治時代に3つまとめて「七五三」と呼ぶようになり、又「七歳にして男女席を同じゅうせず」・・・と社会的な意識も植えつけました。

【酉の日】

11月の“酉の日”は、「お酉さま」とか「酉の市」とも言って「**鷲明神**」の祭礼が行われます。天日鷲命、日本武尊の伝説や東征故事に因みます。又 関東の晩秋の風物詩である「酉の市」は、江戸時代に始まり、縁起**熊手**で商売繁盛を願うお祭りとして賑わいます。このお祭りは元々 秋の収穫祭で農作物や農具などを販売した“農業市”から受け継がれたようです(熊手は最初は“お客へのおまけ”でした)。この市の始まりは今流に言えば、道の駅+フリマ・・・と言ったところでしょうか。

※ 酉の日=「一の酉」「二の酉」が有り、年によっては「三の酉」も有ります。

※ (埼玉県では、おかめ市の名称で [12月](#)が多い)

※ **注意!** (2020年はコロナ対策で斎行は中止や規模縮小で制限されます)



~~~~~  
一方 この時期は 見沼でも たわわに実った「柿の木」を所々で見かけます。

柿は弥生時代に大陸から伝来し、奈良時代に流通化、鎌倉時代には甘柿が栽培されたようです。柿は昔から、「柿が熟せば 医者要らず」の言い伝えが有るように豊富なビタミン、ミネラル、カロテンなど栄養満点です。又、薬用としても優れ、咳、ガン、利尿作用、高血圧や風邪予防、美肌効果や二日酔いにも・・・左利きには救いの神様です。更に、柿渋の耐水性から和傘、団扇など工芸品にも活用されました。

※ 柿の食し方で諺を一つ・・・「瓜は大名に剥かせよ。柿は乞食に剥かせよ」。

(瓜は実の中心部、柿は皮のすぐ下が最も甘みが強いです)